

今週のメニュー

■トピックス1

◇塩のはなし（2）つづき 塩の働き 塩素の編集力

■トピックス2

◇SNSタイアップ広告・第四弾 ～テーマ：塩ビ製品の耐久性～

■トピックス1

◇塩のはなし（2）つづき 塩の働き 塩素の編集力

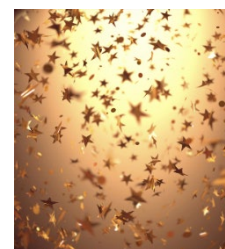
[前号](#)では、塩の働きについて、民俗信仰や社会・経済・政治のなかに埋め込まれた機能であり、生命の維持・再生という地球環境の循環につながる話などを紹介しました。今回は、そのような大きな世界観の話とはことなり、塩そのもののミクロな世界のお話をしたいと思います。

4. 錬金術から化学へ

紀元前、エジプトのアレキサンドリア派の中から現れた伝説上の人物ヘルメスに始まるともいわれる錬金術において、塩は重要な意味を持っていました。錬金術においては、世界は四元素（土、空気、水、火）で構成され、それらは硫黄、水銀、塩の三原質から成り立っているとされます。そのなかで塩は硫黄と水銀とを媒介するものと考えられており、たとえば、硫黄を「王」、水銀を「王妃」で表される婚姻図では、塩は、この二者を結びつける役割として「僧侶」の姿で描かれたものもあったとのこと。錬金術における様々なシンボルと同様に塩も多義的です。また、ギリシア・ローマの世界においては、塩は、変わらぬ友情の象徴とされる一方で、荒廃や不毛、死の象徴ともされています。

ところで、錬金術は15世紀にもっとも隆盛を極めました。その時代の偉大な化学者であるパラケルススは、硫黄は燃える原質であり、水銀は液態と気態の性質をもつ原質、塩は物体の気化しない性質を与えるものとししました。吉田光邦著『錬金術』には次のように書かれています。

「たとえばひとつの木をもやす。硫黄の性によって木はもえる。次に水銀の性によって煙がたちのぼり、ガスがのぼる。そして最後に灰が残る。すなわちこれが塩の性によるものとなる。・・・この三原質はどこまでも原理的な質であって、質の変化に応じて各種の金属があるわけだ。・・・つまり、金にも銀にも鉛にも錫にも硫黄、水銀、塩という根本的な原質が含まれている」



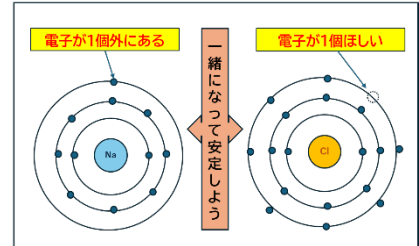


こう考えると、これらの原質の種を変化させれば、卑金属から貴金属、金を作ることが可能だということになります。まさに錬金術師たちが飛びつくのも無理はない話です。もちろん、こういった魔術のような理論は、17世紀末に現れたロバート・ボイルによって否定はされるのですが、錬金術師たちの古典的な実験や探索は、卑金属を貴金属に変換する「法則」や「方法」を発見しようとするものであり、それが近代科学の礎になったともいわれています。かのニュートンも若いころは錬金術に魅せられていたというのもよく知られた話です。

5. 塩素はひとりではられない

塩（しお）は、 NaCl として自然界に存在しており、その多くは海水中で Na イオンと Cl イオンとなっています。このうち、 Cl （塩素）は、多くの元素と結びつく性質をもっていることから、さまざまな性質もつ化合物をつくります。その理由は、塩素原子の周りの電子の数が17個であり、一番外側の軌道上の席を満たす（通常8個の電子が入ることができる）には、1個不足しているからです。つまり、1つ席が空いていることで、塩素原子は不安定な状態に置かれており、外から1個の電子を取り入れて安定した8個の状態になろうとしているのです。一方、ナトリウム（ Na ）は原子11で一番外の軌道には1個の電子しかなく、この1個の電子を放出して安定しようとしています。 NaCl （しお）は、1個の電子をめぐって塩素とナトリウムが互いに結び付き合ってきた化合物なのです。（ソーダ工業会編『Q&A塩素』参照）

ナトリウムと塩素の結合



「塩素はひとりではられない」。この塩素の元素としての性質をみると、このようにも言えるように思います。塩は人類の歴史とともに必要不可欠なものとしてともに歩んできました。それもこれもさまざまなものと反応し、一緒になる力をもった塩素の働きに起因しているのかもしれませんが。

6. 情報と塩素と編集

今年の8月12日に80年の生涯を終えた松岡正剛は、代表的著書の『知の編集工学』のあとがきに次のように書いています。

「私は、情報の基本的な動向について三つの見方を持っている。・・・まず、「情報は生きている」、そもそも生命の本質が遺伝情報などの情報編集であって、人間はこの情報編集のしぐみに属しながら活動をしているということを意味している。次に、「情報はひとりではられない」、情報はつねに別の情報と頻繁な離合集散をおこす“縁”のようなものをもっている。三つめに、「情報は途方にくれている」、情報は自分の行方をさがしている“家なき子”なのだから、適切な誘導を持っているということ。これら三つの動向を一言でいえば、情報は関係しあおうとしているということになる。この関係線を見出すこと、それが編集である。つ



前回からの「塩のはなし」で参考にした本
宮本常一『塩の道』講談社学術文庫
吉田光邦『錬金術』中公新書
松岡正剛『知の編集工学増補版』朝日文庫

まり編集とは、「関係の発見」をすることなのだ。」（一部編集しています）

元素も物質としての「情報」であり、塩素のふるまいも「情報」と同じく関係し合おうとしている「家なき子」であり、その意味で、「塩素はひとりではいられない」のではないかと思います。ここまで書いてきた「塩のはなし」も塩素が同じくさまざまなもの・ことと関係し合おうとしている編集なのだといえます。このような塩素でできている塩ビを作り、人間世界に製品として送り出していくこと。塩ビの有用性や耐久性など社会において必要不可欠であることを皆さんにお伝えしていく活動も、現代社会における新たな関係の発見であり、世界の再編集、再構築につながるのではないかと思います。

参照文献 「塩—『塩俗問答集』を中心として」 渋沢敬三 『柳田国男氏古希記念論文集』所収
『塩の道』 宮本常一著 講談社学術文庫
『塩』 世界大百科事典（ジャパンナレッジ）
『新全国神社検索』サイトおよび各神社のHP ほか
『日本の神話と十大昔話』 楠山正雄著 講談社学術文庫
『錬金術』 吉田光邦著 中公新書
『錬金術 おおいなる神秘』 アンドレーア・アロマティコ著／種村季弘監修 創元社
『Q&A 塩素』 日本ソーダ工業会
『知の編集工学 増補版』 松岡正剛著 朝日文庫

■トピックス2

◇SNSタイアップ広告・第四弾 ～テーマ：塩ビ製品の耐久性～

塩ビ工業・環境協会（VEC）は、9月30日、第4回目のSNSタイアップ広告を掲載しました。タイトルは～『推し活』を始めた女性 初めてグッズを買おうとするが…？～です（メルマガ読者様のおかげで、第三回は掲載2週間で約33万人の方に記事を読んでもいただきました。今回もよろしくお願いいたします）。

ご存じのように、SNSはFacebookやX（旧Twitter）、Instagram、LINE、YouTubeなどが主要なメディアで、最近ではマーケティングや情報の周知などを目的に一般企業や地方自治体、公共団体の利用が増えています。

VECは塩ビへの正しい理解を幅広く推進するべく広報活動を展開しており、主婦層（女性層）とZ世代への広報活動が課題でした。昨年より試みとしてSNSを媒体としたタイアップ広告を開始し、今回で第四回目を迎えました。今回のテーマは『塩ビの耐久性』です。以下、紹介させていただきます。

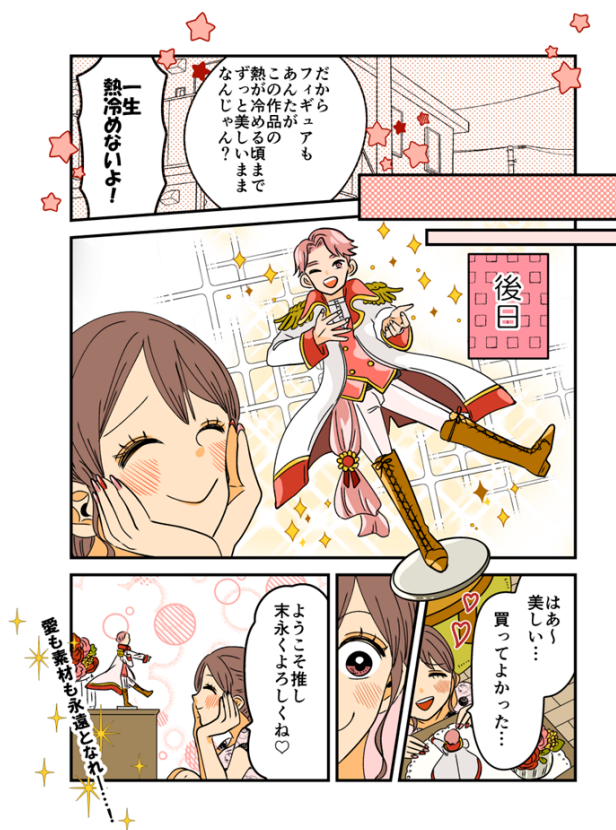


今回のタイアップ広告は漫画記事と文章記事で内容を相互補完する構成になっています。漫画記事は漫画家の岡野く仔さん（フォロワー数＝17.9万人）に担当していただきました。『推し』のフィギュアを購入する女の子が、フィギュアの耐久性への心配から身の回りの塩ビ製品の耐久性について深掘りします……。

また、文章記事では、『塩ビ』の耐久性を起点に①身の回りの塩ビ製品の耐久性、②リサイクル性、および、③エコ素材として『塩ビ』を分かり易く説明していますので、少し紹介します。

① 塩ビ製品の耐久性について……

『塩ビ』は、その耐久性を生かして、上下水道管、窓枠、床材など、長年にわたり使用されることが多く、『塩ビ』生産量の約70%が15年以上使える製品に使用されています。例えば、地中に埋められた上下水道管は、なんと50年経っても、強度はほぼ変わらないのだとか！



② リサイクル性について……

長く使用され古くなった『塩ビ』は、リサイクルによって生まれ変わり、再び長期間活躍することができます。適切に回収し、リサイクルされれば半永久的に使えるといっても過言ではないかもしれません。

③ エコ素材として……

『塩ビ』は長く使われているぶん、資源やエネルギーの節約につながるエコな素材です。生活に欠かせないインフラから、身近な日用品まで、幅広く利用されており、さまざまな場面で、私たちの暮らしを支えています。

文章記事では『塩ビ』の魅力を知ると、フィギュアだけでなく、ほかの製品も末永く愛してしまいそうですよね…！ と結んでいます。

今回、ご紹介した SNS タイアップ広告 第四弾は、次の URL からご確認いただけます（URL = <https://grapee.jp/1712199>）。また、VEC では漫画記事を中心としたパンフレットを作成する予定ですのでこちらもご期待ください。

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <https://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
